

京都産業大学

地域に根差しながら 世界的に活躍できる グローバルな 人材を育てる

グローバル人材とは何か？

京都産業大学法学部の中谷真憲教授は、「グローバルな視点で物事を考える能力を有しながら、地域経済・地域社会（ローカル）の持続的な発展に情熱を注ぐ人材」と定義する。
GLOBAL + LOCAL = 「GLOCAL」という意味である。
「今、大学教育において、グローバル人材の育成といわれている

グローバルな視点で物事を考えながら、地域経済・社会（ローカル）の発展にも情熱を注げる人材。京都産業大学では他大学と連携し、そのようなグローバル人材を育成するため、今年2月「グローバル人材開発センター」を立ち上げた。産学公民の連携を通じて「教育の社会化」を進めながら、優良な中堅企業との就職マッチングも実現する新しい試みだ。



2013
大学
グローバルな人材を育てる

ますが、その核となるのは本質的に「グローバル人材」だと考えています。語学に堪能だが無国籍的なコスモポリタンではなく、自分たちの育ってきた地域や国を背負って活躍できる人材のことです」（中谷教授）



NPO法人グローバル人材開発センター 専務理事・事務局長 京都産業大学 法学部 中谷真憲教授

人財、だと考えています。語学に堪能だが無国籍的なコスモポリタンではなく、自分たちの育ってきた地域や国を背負って活躍できる人材のことです」（中谷教授）

産学公民の緊密な連携で実践教育を

ローカルを理解するには「教育の社会化」が必要になる。学びの場を学外にまで広げ、地域の企業や団体と連携しながら、

の取り組みに対して、企業連携・社会連携をコーディネートするなどの役割を担っている。優良な中堅企業との就職マッチングも



企業トップを招いての講義では、地域と世界で働く意義を討論する。この授業から実際の就職も生まれた

有数の大学の街でもあり世界からの留学生も多い。この特徴を最大限に利用して、産学公民の緊密な連携を通じて、よりダイバーシティ（多様性）に富んだ実践教育（アクティブラーニング）を行っている」と考えたのです」（中谷教授）

同センターのもう一つの目的は、京都の優良な中小・中堅企業との就職マッチングである。「京都には伝統産業からベンチャー企業に至るまで、小さいながらも世界トップシェアを持つようなユニークな中堅・中小企業が多い。学生には就職サイトでは得られない企業の情報を、企業側にはワークショップやPBLなど大学教育の中で学ぶ姿を通して優秀な学生を見つけてほしい」（中谷教授）

さらに同センターでは、体系的な教育プログラムを開発し、その修了者に「グローバル人材能力」の資格を付与、京都企業への就職に役立ててもらおうと予定だ。産学公民の強力な連携によって骨太に鍛えられた学生たちが、地域の企業に目を向けて定着し、グローバルな視点を持ちながら地域社会の将来を担う人材となるよう、積極的に支援していきたい」と抱負を語る中谷教授。京都産業大学が発信する新たな試みに注目したい。

産学公民オール京都による「グローバル人材」育成体制／プラットフォーム



「グローバル人材論特殊講義」を開講している。また、企業から提供された課題に対してプロジェクトチームを組み、大学での勉学の成果を実社会で活用していくPBL（プロジェクト・ベースド・ラーニング）を実施する。グローバル人材開発センターは、こうした学生主体

主体的で実践的な学びの普及を支援していく グローバル人材開発センター

京都産業大学「むすびわざ館」（京都市下京区）に設置されたグローバル人材開発センター。地域の経済界と大学・学生を結びコーディネート機関として機能し、本格的な産学連携プログラムの導入や、主体的で実践的な学びの普及を支援していく。2013年度からは学生主体のプロジェクトチームである「グローバル学生事業部」も始動。京都企業へのインタビューや学生による政策提言、大学ゼミ発企画の実践、まちづくり等の活動が予定されている。



「中谷ゼミ」での学びを基に同センターをサポートするOG



「グローバル学生事業部」で活動する学生たち

グローバル人材開発センター 渉外 行元沙弥さん (2012年法学部卒 11年中谷ゼミ所属)

「京都には優秀な中小・中堅企業が多くあるのに学生に認知されていないものが少なくない。センターの活動を通して、現在のミスマッチが多い就職活動のあり方を変えていきたいと思っています」



グローバル人材開発センター 調査研究 木槻美菜穂さん (2012年法学部卒 11年中谷ゼミ所属) 「留学を通して日本のことを考えさせられ、グローバル社会だからこそローカルな知識が武器になることを実感しました。センターでは産学連携の成功例を数多く実現したいと思います」

在学中に社会人としての基礎力を養う教育だ。その教育の実現のため、2013年2月、京都産業大学が中心となり、NPO法人「グローバル人材開発センター」を設立した。これは京都経済4団体と5大学（京都産業大学、京都府

立大学、京都文教大学、佛敎大学、龍谷大学）、さらに京都府・京都市が協力し、地域経済を支えるグローバル人材を育成することを目的とした機関である。「京都には、地域に根差しながら世界的に活躍する先進的な企業が集積しています。また日本

「先斗町メニューの国際化」に取り組みました

法学部法律学科4年 仲田匡志君



2012年4月から、京都の風情が漂う先斗町を舞台に、「メニューの多言語化」に取り組んでいます。グローバルとローカルを併せ持つグローバルな視点がテーマで、先斗町のれん会や先斗町まちづくり協議会、地域の飲食店の方々の協力を得ながらのプロジェクトです。先斗町でのフィールドワークや、先斗町を訪れる外国人観光客にアンケート調査を行った上で、学内の留学生や語学の先生たちの協力を得て、英語・中国語・韓国語のメニューを作成しました。第1号店はうなぎ屋さんだったので、白焼きとかば焼きの違いをどう伝えればよいか、直訳ではなく調理工程を説明するなどの工夫をしながらメニューを作成、幸いお店の評価も高く、現在では十数店舗からメニュー作成の依頼が来ています。この先斗町との協働事業の他に、京都府北部地域のグリーンツーリズムルート開発事業にも参加しています。これらの体験を通じて、グローバルの意味や働くことの本質を学んでいきたいと思っています。



白焼きは「Un glazed eel (broiled eel without seasoning)」と説明



大学で学んだ語学力を生かし外国人観光客にアンケート調査を実施

CAMPUS GUIDE

京都産業大学

〒603-8555 京都市北区上賀茂本山

TEL.075-705-1411

http://www.kyoto-su.ac.jp/